

## 本あちこち河川遡行記（第277回）

奈良1-6-1.高田川（その1）令和1年7月23日（火）晴時々曇り

大和川の二次支流の「高田川」歩きに出かける。この川は河内、大和国境に連なる「葛城山」の北東山腹からの多くの川を集め北に流れ、大和高田市の中心部を流れる川である。本来なら先週の金曜日（19日）に出かけるつもりで「おとなびこだま往復切符」を用意していたが、あいにくの大雨予想で取りやめ今日は青春18切符利用で振り替えた。最近JRは大雨が予想される時は事前運行停止処置をし出したので、その見返りとして今回の割安切符の運賃分は手数料無しで戻してくれた。特急券分は既に時効になった往分はダメであるが、復分は手数料を取られるが戻してくれる。粋な計らいで被害は最小限で済んだ。

前日もやって来た近鉄田原本線の「佐味田川」駅に再度降り立つ。乗車した電車の塗色は深緑色で今のデザインとは異なる復刻バージョンである。先日のラビットカー塗色と同じサービスである。この色の電車の記憶が無い。たぶん長らく大阪から離れていたのが縁の薄い近鉄に乗っていなかったからだろう。



01.今回調査区間位置図

02.復刻塗装の電車に乗り「佐味田川」駅

駅前の「河合町」コミバス乗り場で暫し待ち、10時32分発「すな丸号」東ルート（緑2号車）に乗車。乗客は当方1名のみ。手でドアを開け「長楽東口までお願いします!」。すぐに発車オーライ。前回の「曾我川」遡行時には「北ルート」を利用したが今日は最初の橋の直ぐ下を通る東ルートを利用した。今日も無料で運んでくれる。町に1銭も落とさずに2回も無料でバスに乗せてもらうのは気が引けるな。途中狭い道をあちこちと巡り、だれも乗らないバス停で時間調整の停車を繰り返し10時49分定刻に「長楽東口」に着き自分でドアを開け下車。タダ乗りだからドアぐらいは自分で開けるのだ。



### 03.河合町営すな丸号に乗り「長楽東口」で下車

直ぐ横の土手に上がるとそこは「高田川」が一次支流の「曾我川」に合流する地点の直ぐ上流部の左岸側である。梅雨末期の連日の雨で川は増水し土色の流れが激しく流れている。大和平野には多くの南北に流れる川が有るが、何れも中河川で水量が少なく稲作に不向きであった。そのため溜池が丘陵の裾に多く造られている。讃岐とおんなじやー。名産は綿花で有るが讃岐は麺だ。水不足を解消するため南の「紀の川」（奈良県内では「吉野川」）から分水し、平野の東西にそれぞれ分水路を延々と建設している。讃岐も「吉野川」から「香川用水路」を県西部から東部まで建設している。同じ吉野川とは偶然の一致である。

左岸側を進むと直ぐに毎度お馴染みの国と県との管理境界看板が立っている。県区間に入ると直ぐに堤防の草刈り作業に出会う。聞くと、高田辺りからここまで作業をしてきて最後の区間とのこと。ここは国よりも県の方が河川管理が行き届いているぞ。



### 04.五月雨を集めて濁る高田川



### 05.直ぐに国と県の管理境に

最初の橋「長楽橋」を見て対岸に渡る。こちらには県の「第二浄化セン

ター」が曾我川と高田川の間によく展開している。大和平野には多くの小さな市町が密集し、それぞれで処理場を造るのが難しいので纏めて県が面倒みているのだろう。浄化センター沿いのフェンスに囲まれ、鬱蒼と茂った木々が連なる道を南に進む。川の方からは草刈り中の多くのチェンソーの唸り音が聞こえてくる。蝉達も負けじと泣き叫んでいる。梅雨明けを感じさせる蒸し暑さに音が加わり一層暑くなってくる。



#### 06.第二浄化センター敷地境のフェンス沿いに

日傘をさし次から次に出て来る汗を拭いながら土手道を進む。時折西の方から風が吹き気持ちよいがそれ以上に暑さがこたえる。遡行を始めた時はそれほどもなくスイスイと歩いていたが今はこたえまっせ！

そろそろ昼をとベンチと日陰を探しつつ歩くがなかなか出会えずにやって来たが、県道14号の「寺戸大橋」の手前まで来ると大きな屋根のある丸ベンチが有る。やっと休憩できると近づくと先客がテーブルに荷物類を置いている。ははーん草刈り作業の人達の物だな。分散している作業員の集合場所のようだその荷物の無い所に座りコンビニお握りの昼を摂る。心地よい風が吹き抜けこのまま眠っていたくなる。川向うには広陵町名物？のかぐや姫のデカイ像が竹の中にある。竹からは赤ん坊が生まれたはずだが大人になっているぞ。



07. やっと現れた屋根付きベンチには  
先客が

08. 馬鹿でかい大人のかぐや姫が竹  
から？

心地よい所から再び地獄の様な土手道に戻るとまたまた汗が待ってましたと噴き出る。塩を嘗め、お茶を飲むことを繰り返し、日傘をさしたり畳んだり忙しい。

右岸側に地形図には名が載っていない川が合流している。橋は合流点の両川を一気に跨いでいる。



09. 合流部に架かる橋は両川を一気に越えている

暑さが応えるのか日陰に来る度に小休止を取る。南からの流れが南西方向からの流れとなる。4本の平行した流れがそれぞれ方向を変えその間隔が広がる。平尾地区を進むと川の西側に聞きなれた名前のジェネコンの本社が有る。奈良県最大の会社がここ広陵町に有るんだ。草刈りが終わった土手の斜面は見事な仕上がりとなっている。



10. 奈良県最大のジェネコンの本社がここに

ここまで奈良県内の橋にはこれといった親柱が無かったが次々と現れる橋に

は小さな親柱が続き、鋼製パイプ高欄には欄間風の絵が嵌められている。人口3万越えの「広陵町」は財政状況も良いのだろう。



11.高欄にかぐや姫？が



12.こちらは弁財天？と雷神が

コンビニに入り冷たい飲み物を飲み休憩しているともうこれ以上歩く気力が無くなって来た。予定ではJR高田駅まで歩くつもりであったが一番近くの近鉄「築山」駅に向かうことにする。中途半端に休憩すると娑婆が恋しくなってくるのだ。最後の気力を振り絞り川沿いを進むと「靴下の町」と書かれた靴下形状の標識が目立つ。広陵町は日本一の靴下生産地なのだ。かつての綿花の産地の名残である。讃岐の旧「白鳥町」（現：東かがわ市）は日本一の手袋の産地である。これで両方を歩いて来たので手足が一緒になった。



13.広陵町は靴下生産日本一？

なんとか駅に着きクーラーの利いた待合室で電車を待つ。帰りも長ーい電車の旅が待っているぞ。

本日の歩行距離：7.8km。調査した橋の数：27。

総歩行距離：10,501.0km。総調査橋数：13,441。

使用した1/25,000地形図：「大和高田」（和歌山5号-2）